



TITLE:

星座漫筆酒榭さま

AUTHOR(S):

野尻, 抱影

CITATION:

野尻, 抱影. 星座漫筆酒榭さま. 天界 1931, 11(120): 238-238

ISSUE DATE:

1931-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161638>

RIGHT:

● 星 座 漫 筆 ●

酒 榊 さ ま

野 風 抱 影

東京から四國の星の和名を云爲するのは聊か憚り多い。恐らく其地方では、或は倉敷あたりでも、案外珍しくない名なのかも知れないが許して戴く。それは友人 F 君が、つい先頃丸龜の俳人小山嘲夢氏から聞いて報告してくれたもので、あの邊では、オリオンのみつ星を圍む四邊形のことを「酒榊さま」と言ふ相である。無論 $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ の四星で、それから柄が出てゐる意匠だが、そこまでは判然しなかつたと言ふ。

これは、少くも僕としては初耳である上に珍しい知識だつた。みつ星には昔から幾つかの名があるし、僕としても前號の「お三大將星」初め二三聞きこんだ異名もある。しかし、あれのフレイムになつてゐる四星に名があつたのは喜しい。そして、此の「酒榊さま」は當然酒造りの——村民などの人々の間から生れた敬稱に相違ない。四國のあの邊の海岸或は海を渡つた中國筋に酒を造るところがあるか否か僕は知らない。直ぐ念頭に浮ぶのは池田伊丹から御影へかけての灘地方である。僕は、「酒倉の露路を燕や海見えて」——こんな駄句を作つたことのある、御影あたりの並倉の空のオリオン座を空想して見た。高教を待つ。

これに就いて、もう一つ新しい知識は、前の話を僕から聞いた H 君が、奄美大島出の學生から、オリオンの此の四星を「榊がた星」と呼ぶことを聞き、且つ丸龜の場合でははつきりしなかつた榊の柄が、K のサイフから兎座の α, β へ引く線であることも星を指さして正して來てくれたことである。H 君は、それが短い柄なのが矢張り酒榊に相應しいと説明してゐる。

北斗七星を「榊星」と言ふのは、昨年熊本八代地方から知らせてくれた知人があるし、最近山形の學生 I 君からも教へて貰へた。但し此の名は昔から相當聞えた名である。しかし、オリオンの「酒榊さま」は、これも古くからの名だらうが、如何にも地方味が濃いだけに、全國的には知られてゐなかつたのだらうと思ふ。(2.28)